

2003年度 国内奨学金受賞者

I 一般奨学生 大学院生 6名

Table with 6 columns: 氏名, 大学院, 研究科・専攻, 課程・学年, 推薦, 出身大学. Lists 6 award recipients.

II 安井医学奨学生 1名

Table with 6 columns: 氏名, 大学院, 研究科・専攻, 課程・学年, 推薦, 出身大学. Lists 1 award recipient.

III 社会福祉奨学生 大学院生 1名 学部生 1名

Table with 6 columns: 氏名, 大学・大学院, 研究科・専攻/学部・学科, 課程・学年, 推薦, 出身大学. Lists 2 award recipients.

選考と結果

2004年1月10日(土)、京王プラザホテル... 国内奨学金贈呈式

第56回 一般奨学生

国内奨学委員長 海老根静江

本年度の国内奨学生は、4月の総会でもご報告したように、一般奨学生は大学院生のみ対象とすることに...

委員会に先立ち各委員は応募者の書類を検討し、各自の評価表を作成して委員会に臨み、地域や専攻も考慮して慎重に審議を行った結果、一般奨学生6名と安井医学奨学生1名...

の候補者を選び、11月1日の理事会の承認を受けて2003年度奨学生として決定し、応募学生、推薦大学、各支部長に結果の報告を致しました。

大学院女子学生の増加と、財政事情、大学婦人協会国内奨学金の「優秀な女子学生に教育資金を与える」という趣旨を考慮しての制度変更で...

橋本のぞみさんは、樋口一葉の研究であり、地道な研究に立ちつつ、ジェンダー、女子教育の制度、古典のテクストの引用などの広い視点から研究を進めています。

部奈千晶さんは、世界的なサンゴの白化現象から生じた沖縄本島域のサンゴ礁の荒廃を救うべく、調査...

第32回 社会福祉奨学生

社会福祉委員長 鈴木光子

今年度も社会福祉委員会では、国内奨学委員会とともに、各大学の学長および当協会各支部長を通して奨学生候補者の推薦をお願いいたしました。その結果、大学院生2名、学部生6名の応募がありました。

今年度より国内奨学委員会の制度変更に伴い、当委員会も大学院生1名、学部生1名に奨学金を贈呈することにいたしました。8名の応募者の中から、大学院生・学部生それぞれ1名の奨学生を選ぶことは大変困難でしたが、規程により、学業成績と障害の程度とを勘案し厳正な審査の結果、候補者を推薦、理事会で承認され、次の2名が決定しました。

研究を行っています。加藤芽里さんは、環境調和型分子およびエネルギー変換という遠大な目標を視野に、人工的分子変換システムの開発に取り組んでいます。

山本亜衣子さんは、熊野比呂尼という、16世紀から近世にかけての女性宗教者を通して、女性信仰という点から女性史に関わろうとしています。

安井医学奨学生の竹村典子さんは、成体動物脳で生涯にわたって産生される神経細胞(ニューロン)の学習・記憶のメカニズムにおける役割という最先端の分野での研究者です。

以上のように、選考しながら興奮を覚えるような、将来性豊かな学生の方たちに奨学金を差し上げることになったことは本当に幸甚なことであり、選考の過程に直接関わってくださった各支部長さんにもとより、さまざま形で奨学金を支えてくださったという会員の皆様にお礼申し上げます。

また、学部奨学生の山本美由美さんは、ろう者であると同時に、若年性関節リウマチによる機能障害で週1回の通院とリハビリを続けながら、京都精華大学で「マイノリティとしての聴覚障害者について」の分野での研究に意欲をもち、将来はこうした研究を、福祉関係の仕事に生かしたいという希望を持っています。

この他、民間企業に数年間勤務した後、さらに勉学の必要を感じ大学や大学院で意欲的に研究を続けたいという方、母子家庭を支えながら研究に励み、聴力障害者の教育機関に関わりたいという意欲をもつ方など、できることなら、もっと大勢の方に奨学金を差し上げたいというのが、審査員全員の気持ちでした。

提出論文概要と将来の希望 一般奨学生 WTO農業交渉と日本の貿易政策

国際基督教大学大学院 齋藤里奈

今年2月に「Japan and WTO Agriculture Negotiation」という小論文を、ISC Wings Award (St. Gallen University of St. Gallen主催の小論文コンテスト)に提出、入賞し、5月にSt. Gallenで開かれたISCシンポジウムに招待され、参加しました。

WTO農業交渉は現在進行形で行われているため、情報収集はヒアリング調査、WTOウェブサイトをなどインターネットから行います。ヒアリング調査に関しては、今年5月よりお話をうかがっている農林水産省のWTO担当職員の方々に、7月にUniversity of Sydneyより研究のため来日していた修士課程の学生と行った新潟県のコメ農家と村役場の方々に、引き続きインタビューを行う予定です。今後、WTOセ...

本研究は、日本の近代女性文学の源流を解明するべく、従来「非現実的」とあるいは「非近代的」としりぞけられてきた樋口一葉の初期作品を扱いたい。その内部世界の再評価を目指すものである。初期作品には、明治27年までの小説と和歌、日記などが含まれるが、これらには、おもにカール・スタデイーズの手法により、樋口一葉とジェンダーの問題や「別れ霜」、「うもれ木」、「花ごもり」、「やみ夜」の諸作品の近代的な側面を浮き彫りにする形で分析を進めてきた。博士論文をまとめるにあたっては、これら従来の拙稿を補い深めるべく、作品中に引用された先行テク...



2003年度国内奨学生と記念撮影 会長・副会長・関係理事・手話通訳住吉さん(前列左から2人目)

クレタリーおよび他の主要国の農業交渉担当者へのヒアリング調査を行い、9月には、国際連合大学主催のセミナー「人間の安全保障」での、「食の安全保障」についての田坂興亜アジア学院学長の講演を聴き、有機農業について考えられています。将来の希望としては、日本の外交およびWTOなどの交渉の現場で働きたいと思っています。

日本女子大学大学院 橋本のぞみ

具体的には、まず女性の生の諸相を扱った小説の生に於ける女子歌の群、当時における女子歌の殿堂・秋の舎の指導下になった和歌の数々を理解するため、当時における女子教育の現状や家制度のあり様などを、女性雑誌や公用文、教科書等を通して検証する。と同時に、当該作品への影響が認められる『伊勢物語』や『源氏物語』をはじめとするインテリジェントを取り上げて、当時のメディア上での扱われ方を調査し、それぞれの成果を作品世界の読解へと還元したい。

以上の研究は、一葉後期の作品はいうにおよばず、大正期に「一葉の再来」と称された素木しづの文学や、肯定するにせよ否定するにせよ彼女の影響下にあった「青鞵」の同人に関する研究、一葉の文章を範とした作文の文章などとも関わるものであることから、将来はそれらについてもアプローチを試みたいと思っている。

守田科学研究奨励賞、6年目を迎えて

科学研究奨励委員会委員長 島 美喜子

大学婦人協会に科学研究奨励賞が設けられることになったのは1998年であり、今年度で、はや6年目を迎えることになった。この賞は、40余年、中学・高校の科学教育に貢献された故守田純子氏のご遺志により寄贈を受けた基金をもとに設立されたものであり、自然科学を専門分野とする若い女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に寄与する人材を育成することを目的としている。

私ははからずも、当初からこの新しい project の運営に係るようになったが、これまで自然科学とはあまり関係のなかった大学婦人協会であるが、この賞のなされたことに、考えるべき問題は少なくない。一つは受賞候補者の公募であり、なるべく多くの優秀な女性科学者が応募されるように、自然科学関係の主な学会(17)の会誌と新聞各紙に募集要項の掲載を、また、40余の大学宛に受賞候補者の推薦を依頼することにした。幸い、毎年、自然科学の殆ど全ての分野にわたる優秀な女性科学者から多数の応募があり、また、その地域も関東、関西のほか、北海道、東北、四国、九州、沖縄にいたる極めて広い範囲にわたっている。もう一つの問題は、受賞者の選考を行うのにふさわしい委員会を構成することであった。これも幸い、多くの方々のご協力を得て、自然科学を専門とする、主に大学関係者15名からなる委員会がこの事業の運営に当たることになった。この委員会は発足の2年後、2000年度から「科学研究奨励委員会」として、定款による委員会に加えられた。

また、この賞は、毎年2件、副賞として30万円宛を贈呈していたが、その後、追加の寄贈を受け、第5回からは副賞を50万円宛に改めた。

女性に対する社会的状況は、以前に比べると現在、著しく改善されているが、能力も業績もありながら、恵まれた状況にあるとはいえない女性科学者が少なくないというのも実情である。

毎年、5月に行われる賞贈呈式、



第1回贈呈式で。左から原田博士、島委員長、斎藤博士

最後にこれまでの受賞者を紹介しておくが、その殆どの方が既に大学婦人協会に入会されており、将来は有力な会員として協会の発展に貢献されることにも期待がもたれる。

第1回 斎藤礼子・東京工業大学大学院理工学研究科助手(高分子化学) 現在、同助教授 原田慶恵・慶應義塾大学理工学部物理学講義師(生物物理学) 現在、東京都臨床医学総合研究所生理活性物質部門室長

第2回 庭山聡美・オクラホマ州立大学化学科助教授(有機化学) 浜崎浩子・東京医科歯科大学難治疾患研究所助教授(神経科学)

第3回 香取浩子・理化学研究所磁性研究室主任研究員(物性物理学) 加藤美砂子・お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授(植物生理学)

第4回 大島まり・東京大学生産技術研究所助教授(バイオ流体力学) 中島裕美子・琉球大学遺伝子実験センター助手(遺伝学) 現在、同助教授

第5回 増子佳世・聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター助手(リウマチ学) 村松加奈子・奈良女子大学共生科学研究所センター助教授(自然情報学)

「女子差別撤廃条約選択議定書」批准促進集会

男女平等と平和を求めて

国内NGO委員長 松比良節子

去る12月10日世界人権デーに、表記の集会在国際婦人年連絡会(全国組織46団体)の主催により主婦会館で開かれた。約180名が参加し、JAUWからは14名の会員が会を盛り上げた。

はじめに内閣府男女共同参画局長・名取はにわ氏から、最近の共同参画現状報告と、「共にがんばりましょう」の挨拶。つづいて江尻美穂子世話人による基調報告があり、75年以降の超党派の女性団体による、平和と女性の権利・地位の向上への努力、また最近のバ



基調報告をする江尻美穂子世話人(2003. 12. 10)

の感想を聞くほど、迫力があつた。たとえば、DV防止法が成立して相談が急増し、法律ができたのはよいことだが、現行のままでは精神的な暴力を含まない、配偶者以外の対象に適用されないなど十分でない、保護命令の対象・期間の拡大、接近禁止の内容の拡大(メール・FAXなど)、配偶者暴力相談支援センターの機能の強化等が必要である。

フロアからは、東京都七生養護学校の先生が立ち、今まで効果を上げてきた性教育の教材を取り上げられる等の都教委による圧力が、都議会の議員の発言から始まったことについて訴えがあつた。医療労働現場の賃金

「初心を忘れず」

教育委員会 担当代表 平田 宏子

教育委員会が「教科書と教育」の調査を行っている、その結果を、当時の田中正子委員長が、会員として登録いただいた会が発表してから5年が経過した。この調査に携わった委員たちから、調査結果を何らかの実践的活動につなげたいとの提案がなされ、翌年、「留学生と日本文化を学ぶ会」が発足した。

日本とアジアの国々の間には、まだ十分修復されていない精神的なわだかまりがあるが、アジアからの若い人々に日本を理解してもらう上で、この国の伝統文化に触れてもらうことが、ひとつの大きな助けにな



琳派とお茶の会(2003. 7. 12)

いる。十二単の着付け見学会、お琴の会、きものを着る会、折り紙の会、版画制作見学、俳句実作、茶道の会、袱紗についてのお話、琳派作品鑑賞、門松のリース作りなど。こちらも協力会員の方々が、講師を引き受けてく

ださったり、貴重な品々をお貸し出しくださったりと、強力なサポートをしてくださっている。

また昨年は、留学生の博士論文をきく会を催した。みごとな論文を完成させて帰国した中国の留学生は、現在、大学で教鞭をとりながら、この会との出会いを学生たちに語りかけている。と便りをくられた。

このように、な若い未来への力が各々に育つてくれることを信じて、担当者一同、活動を続けてい



くつろいでお話を聴く参加者

方、作品を展示して下さる方、自薦・他薦、お待ちしています。

また会員委員会では寿はがきを出しています。お元気で喜んでくださり、お返事をいただいたり、委員一同励まされています。

全国セミナーを中心に調査研究

女性の地位委員長 増 潤 民 子

JAUWの全国網を使用している女性の地位向上に関する研究、IFUWの国際網を使用している女性との国際比較。そんなことをしたいなど、女性の地位委員会では話し合っていた。

しかし、この2年間に振り返ってみると、難解なセミナーの研究に専念してしまつた。

昨年は「ICT企業において女性活躍を拡大できるか」をテーマに、企業対象に調査研究をした。委員たちはパソコンと広い視野で野望をもつた。委員たちは「ICT産業界の知識は浅く、勉強もしたが調査票の作成は困難で、長谷委員の協力のおかげででき上がった。

一連の研究で、企業からは「女性の進出は大歓迎。しかし、女性も多くの役割を担っており、本部門の絆を深めて、この素晴らしいJAUWの発展のために活動してもらいたいと希求する。

当委員会のようにメールで会議を開くと会合は少なく済むので、もつと多くの支部会員が本部門の役に携わり、本部門の絆を深めて、この素晴らしいJAUWの発展のために活動してもらいたいと希求する。

「サロンJ」にお出かけください

会員委員長 秋 月 薫

年々、JAUWの会員数が減少の傾向にありま

す。皆様のご協力で新入会員を増やすことに努力してありますが、現実には、なかなか順調にはいきません。会員委員会は、皆様の情報を正確に処理し、本部からのお知らせや会報などがお手元にきちんと届くよう、全員で頑張っています。

サロンJは、本部事務所で、どのような活動がされているかを理解していただくために開いています。

場所は事務所、テーマは会員の方のお話、また趣味のこと、作品作成(絵手紙)など。会員の方は各分野で活躍しておられますので、委員だけ

障壁は出産・育児である」という回答を、長時間労働の悲鳴と共に得た。

つまり、当委員会が従前から唱えているように、子育てを社会全体で支えねば、時代の先端を走る業界でも、女性に明るい未来はないのである。個人的なことを言わせていただくと、私は栃木支部会員である。51分電車に揺られて東京に通うと、理事会・委員会に誠心良心的であり、心情的・能力的にも優れた人の集まりであることを感じる。

当委員会のようにメールで会議を開くと会合は少なく済むので、もつと多くの支部会員が本部門の役に携わり、本部門の絆を深めて、この素晴らしいJAUWの発展のために活動してもらいたいと希求する。

い。会員以外の方も誘いください。

お話をしてくださる方、作品を展示して下さる方、自薦・他薦、お待ちしています。

また会員委員会では寿はがきを出しています。お元気で喜んでくださり、お返事をいただいたり、委員一同励まされています。

〈支部だより〉

ことばへのこだわりを大切に

秋田支部長 湊 則子

支部発足56周年、課題(会秋田支部公開講座に、同窓会の交流も活動の一つが会員増です。)

5月31日の支部総会で、本年度の役員紹介に続き、第46回通常総会の報告・事業計画の検討の後、会員募集の資料改訂が話題となりました。



一般公開で行われた講演会のあとで、秋田支部のみなさん。(2003年11月)

「自然現象の中での秩序と無秩序について」 科学史から見たエントロピー

第3回自然科学講演会報告

「自然現象の中での秩序と無秩序について」

科学史から見たエントロピー

2003.12.13(土) お茶の水女子大学にて 科学研究奨励委員 伊藤厚子

科学研究奨励委員会と東京支部・お茶の水女子大学の共催で、八木江里



エントロピーについて語る八木江里委員

晴天に恵まれた初冬の開催されました。室伏委員が、自然科学講演会が

方々に、敬老のお祝いと、会へのご尽力への感謝の

11月15日、橋本前支部長グループの担当で、研

修会が、昨年に引き続き一般公開で行われました。

講師は、NHK秋田放送局放送部副部長中川富

雄氏。本稿表題がその演題で、地元紙「魁」への

広告掲載などもあり、年齢・性別

を問わず60人を超える参加があり

ました(副題「思いを伝えたい」)

受け止めたい。内容は割愛します

が、参加者からは活発な質問もあり、開かれ

ました。エントロピーという言葉

を、時々、耳にするけれど、分かるような分からないような感じ

が、会員の中にも多いと思います。

八木さんのお話は、「クラウジウスの提案したエントロピーは、現在では経済学の分野でも利用され、特に環境型社会

を目指すための議論の理

解に、大切な概念の一つとなつてい

るといいます。エントロピーは、1865年にクラウジウスが導入した熱力学の概念です。その概念が、経済学や情報通信理論などで広く使われるようになった現在、自然科学を専門としない方々にも、その科学的な起源を探り、理解を深めていただきたいという主旨で、お話しください

〈本部委員会から〉

情報委員会、ただ今発信中(その2)

情報委員会委員 遠藤理枝

情報委員会が発足して間もなく2年になり、今年度の活動を振り返って見ますと、大きくは、① JAUW内のICT化の一環として、ドメインネームの取得とホームページの整備・充実・準備ならびに会員のメールアドレス登録整備、② 全国セミナー発表(ICT機器利用)のバックアップ、③ 会員向けパソコン(PC)講習会の開催です。

外部への発信塔であるホームページ(HP)は既に開設されていますが、ドメインネームをJAUWにあさわしものへと変換することが、昨年度から引き続きの課題としてありました。昨年7月に新しく「jauw.co.jp」を登録し、現在は新旧並列ですが、今年6月以降は一本化します。

そしてJAUWの組織の全貌が分かり易く、各委員会や支部の活動も一目で分かるような内容のHPを目指してその構成を改変し、より魅力的なHPの作成の準備に入りました。HPの充実に伴って、各委員会、各支部の活動がより有機的な連携をもって活発化し、JAUWの存在をより明確に外部へ発信できるようになればと思います。

また、JAUW内部で難しい概念を平易に、のご努力が随所にうかがえる話の運びで、講演終了後には会場から活発な質問やコメントがあり、予定の時間を大幅に超過する盛況ぶりです。

会費納入のお願い

今年度分会費未納の方は、なるべく早く各支部を通してお納めください。3月発行のセミナー報告書は、会費納入者におのみ発送されますので、それまでによろしくお願いたします。 2004年2月 本部 会計

第28回IFUW総会のワークショップに参加 「ICT Education in Japan」をタイトルに

国際委員長 柳原由美子

国際委員会は、2003年度全国セミナーで、「外国におけるICT教育に関する事例研究」を発表しましたが、この調査研究をさらに進め、表題のタイトルで、パースIFUW総会のワークショップへの参加を決め、理事会の承認を得て、申し込みを済ませました。

その中で、岡山支部の真瀬和美委員(箕島小学校長)の全国セミナーでの発表(「ICT男女平等教育と指導者育成の現状」)を、日本のICT教育の一事例として紹介する予定です。

〈理事会から〉

- 本部事務所に提案箱を設置しました。建設的な提案を、お待ちしております。 ●エアコンが新しくなりました。とても快適です。 ●「2003年度全国セミナー報告書」を作成中。3月初旬に発行予定です。 ●1月21日(水) 婦選会館で、第58回国連総会報告会が、国連NGO国内婦人委員会(JAUWほか9団体)主催で行われ、政府代表代理として国連総会に出席した房野桂さん(神奈川支部)は、第3委員会(人権・人道・文化)の模様を報告しました。 ●第16回サロンJのご案内 <会員委員会> テーマ 『裁判員制度』について 講師 白井典子会員 日時 2月13日(金) 13:30~16:00 場所 大学婦人協会事務所

〈東京支部〉 講演会のご案内 『女性のウェルネスを求めて』 講師 江尻美穂子氏 津田塾大学名誉教授・JAUW会員 日時 2月9日(月) 1時30分~3時30分 会場 津田塾大学同窓会会議室

第28回IFUW総会出席旅行のご案内

皆様ご承知のとおり、第28回IFUW総会が、2004年8月4日(水)~10日(火)の日程でオーストラリアのパースにて開催されます。弊社では前回のオタワに引き続きまして、大学婦人協会様より正式に指定旅行代理店としてご依頼いただきました。過去の経験をもとに、会員の皆様ならではの魅力ある旅行になりますよう努めさせていただきます。下記のようなご旅行日程を企画いたしました。

- Aコース(会議出席コース) 8月2日(月)~8月11日(水) 10日間 お1人様 235,000円(最少催行人員20名) お1人部屋追加料金:45,000円 Bコース(会議出席と世界遺産をめぐるコース) 8月2日(月)~8月16日(月) 15日間 お1人様 440,000円(最少催行人員15名) お1人部屋追加料金:94,000円 Cコース(会議出席とオーストラリア西と東をめぐるコース) 8月2日(月)~8月17日(火) 16日間 お1人様 420,000円(最少催行人員15名) お1人部屋追加料金:86,000円

※上記料金には空港税(日本、オーストラリア)を含みません。 ※Bコースについてはエアズロック~各都市の航空座席の関係上、満員になり次第締め切らせていただきます。 詳細につきましては弊社よりご案内をお送りしますので、下記担当者までご一報下さい。 上記コース以外にも、ご自由にご日程をお組みいただくオリジナルツアー、大阪・名古屋・福岡など地方発も承りますので、お気軽にご相談下さい。 なお、前回の会報のご案内には、パースの宿泊代金を含めておりましたが、会議が開催されますシェラトンパースの宿泊のご用意ができましたので、その金額も含めてご旅行代金を算出致しております。

JTB東京日本橋支店

(1/5~JTB東京日本橋支店に名称変更・移転致しました) 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-2-6 TEL:03-3273-2456 FAX:03-3273-2460 IFUW総会出席旅行係 担当:高橋秀男・小野田鮎美・小口まゆみ・金子真澄